

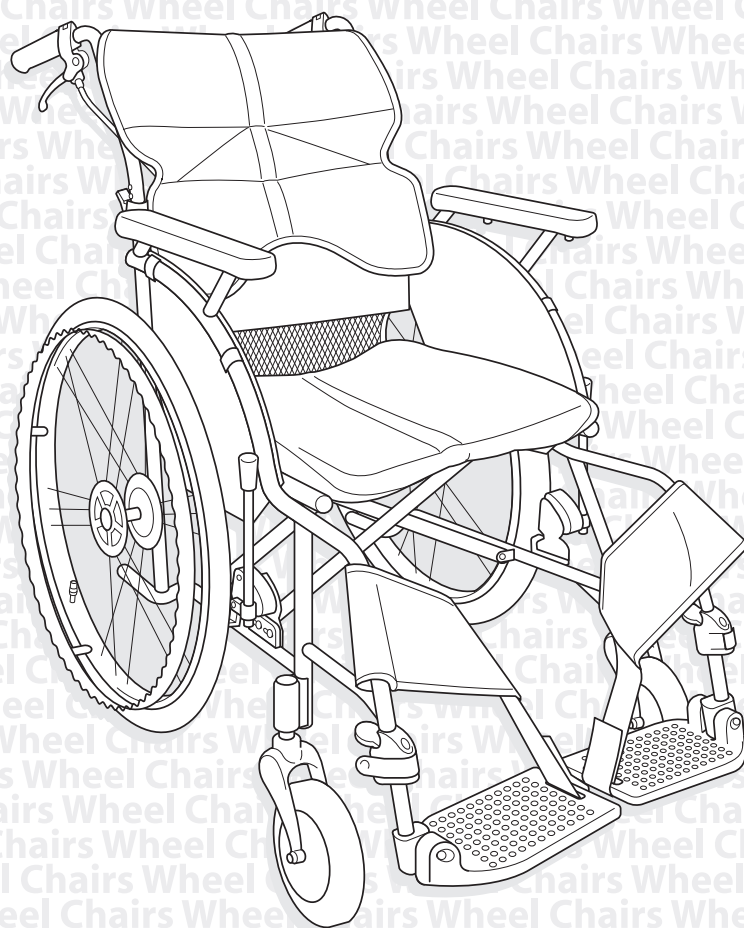
マツナガの車いす

NEXT CORE SERIES

取扱説明書

保存用

保証書付



愛の輪
愛のいす



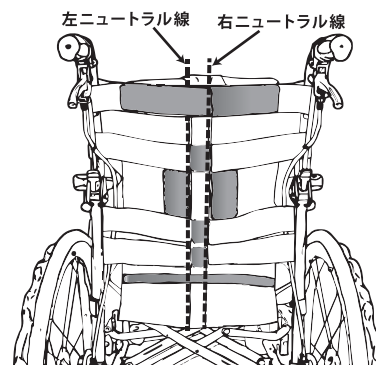
MATSUNAGA

～ 張り調整ベルト及びポケットに関する注意事項 ～

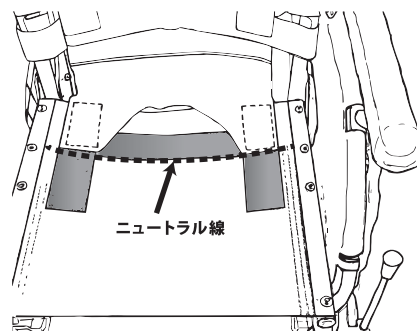
この度は、(株)松永製作所の製品をお買い上げ頂きありがとうございます。
取扱説明書内に、題記 注意事項が欠落しておりました。
当書面にて、記させて頂くとともに、お詫び申し上げます。
ご不明な点がございましたら弊社までお問合せ下さい。

背張り調整ベルトにてユーザー様の身体に合わせ調整する際は、下記事項に留意し、お取り扱い頂きます様、お願い申し上げます。

・背張り調整ベルトは、弊社出荷時には右図のニュートラル位置（初期設定位置）で設定されています。
ニュートラル位置は、出荷時の基本設定です。
ご使用は、ユーザー様の身体に合わせて、調整して頂きますようお願い申し上げます。

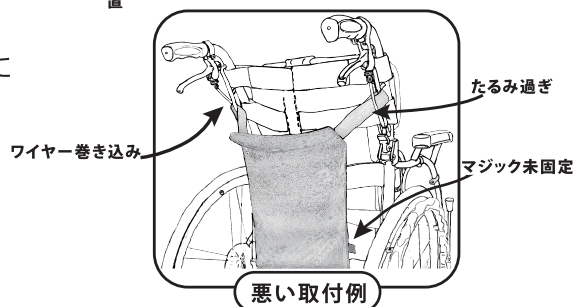
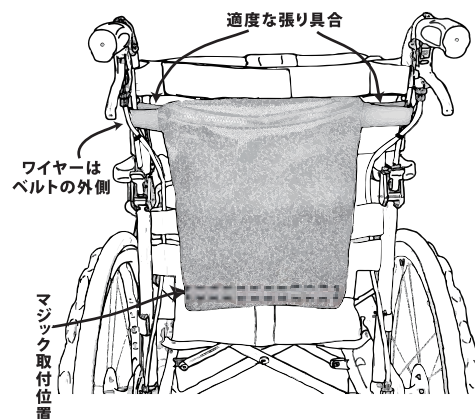


・背もたれインナーシート下部シートと座シート固定マジック部は、出来る限り右図のニュートラル位置（初期設定位置）にてご使用下さい。
※前方で固定した場合、車いす折り畳み時に、折り畳みにくいなどの弊害を及ぼす場合があります。やむを得ず前方にて固定される場合は、折り畳み動作を確認した上で、調整してご使用下さい。



背もたれうしろ、取り外し式ポケットの取り扱い時は、下記事項に留意し、お取り扱い頂きますようお願い申し上げます。

・背もたれうしろ、取り外し式ポケットは、右図のように、出来る限り、サイドのベルトを張った状態にてご使用下さい。但し、張り過ぎて背もたれパイプが内側へ倒れないようにして下さい。（破損や、車いす折り畳み機能に、弊害を及ぼす原因になります。）
・ベルト取付時、ブレーキワイヤーを巻き込まないようにして下さい。（介助ブレーキ制動に悪影響を及ぼす場合があります。）
・ポケット下部のマジックテープは、背インナーシートうしろ側下部の指定位置（※右図参照）に張り付けてあることをご確認の上、ご使用下さい。
※右図「悪い取付例」のような取り付け方をした場合、外部障害物との引っ掛かりや駆動輪への巻き込み原因になる場合がございます。十分ご注意ください。



このたびは、(株)松永製作所製品の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。

ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、**保証書**(最終ページ)が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検・記録表が付いておりますので、ご自身・お買い求めの販売店(有料)等で定期的に点検をしていただくようお願いします。

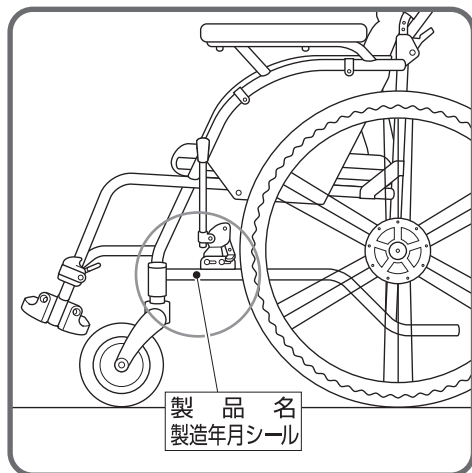
車いすが、身体に合わない状態ではご使用にならないでください。

健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入された製品の機種名をご確認ください。
機種名は、下記位置に表示してあります。



次に4～5ページの各機種別機能一覧にてお捜しください。



- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

付属品



取扱説明書

目 次

安全にお使いになるための注意	2
機種別寸法一覧	4
各部の名称	4
機種別機能一覧	5
機能説明	5
広げ方・折りたたみ方	6
車いすの広げ方	6
車いすの折りたたみ方	7
安全にお使いになるための使用方法	8
ブレーキの使用方法	8
フットサポートの調整	9
使用方法	10
乗り方	10
降り方	11
動かし方	12
介助の仕方	13
外出時の注意	14
ご使用の前に	16
車いすのオプション	16
もしこんなトラブルが発生したときは	17
車いすのお手入れの方法	18
保管場所	18
JIS規格について	19
保証書	21

安全にお使いになるための注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」の内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」の内容です。



警告

(禁止)



してはいけない

- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車いすの部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。
- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車いすのシートの上で立ち上がらないでください。

(強制)



必ずしていただく

- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 坂道の登り下りの時は、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- バックサポート折りたたみのロックピンが「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。
急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。
- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、ブレーキをロックしてください。
車いすが動き、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。



注意

(禁止)



してはいけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車いすを払げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- 介助者の方は、制動用ブレーキで急ブレーキをかけないでください。
車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。

(禁止)  しては いけない	■タイヤを持って車いすを操作しないでください。 ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。 ■スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。 摩擦で、手にケガをする恐れがあります。 ■走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。 ■車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。 手や指をはさんで、ケガをする原因となります。 ■バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。 バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。 ■スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。 使用者が車いすから転落して、事故の原因となります。 ■バックサポートが折りたたみの場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。 パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。 ■車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。 重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。 ■バックしながら、急停止しないでください。転倒事故の原因となります。 ■凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。 バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。 ■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
(強制)  必ずして いただく	■車いすを上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。 パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。 ■車いすを折りたたむ際には、背シート・ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。 ポケットの中の物を破損したり、車いすの故障の原因となります。 ■介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。 バランスを崩し、転倒事故の原因となります。 ■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し事故の原因になります。 ■フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故の原因になります。 ■乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。 車いすが動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。 ■坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。 前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。 ■側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。 車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転落・転倒事故の原因となります。 ■介護者の方は、移動中に使用者のつま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。 ■介護者の方は、フットサポートに使用者の足が乗っているか確認して走行してください。 ■マジックテープに付いた糸くずや汚れを取り除いてください。 粘着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ転落事故の原因となります。

機種別寸法一覧

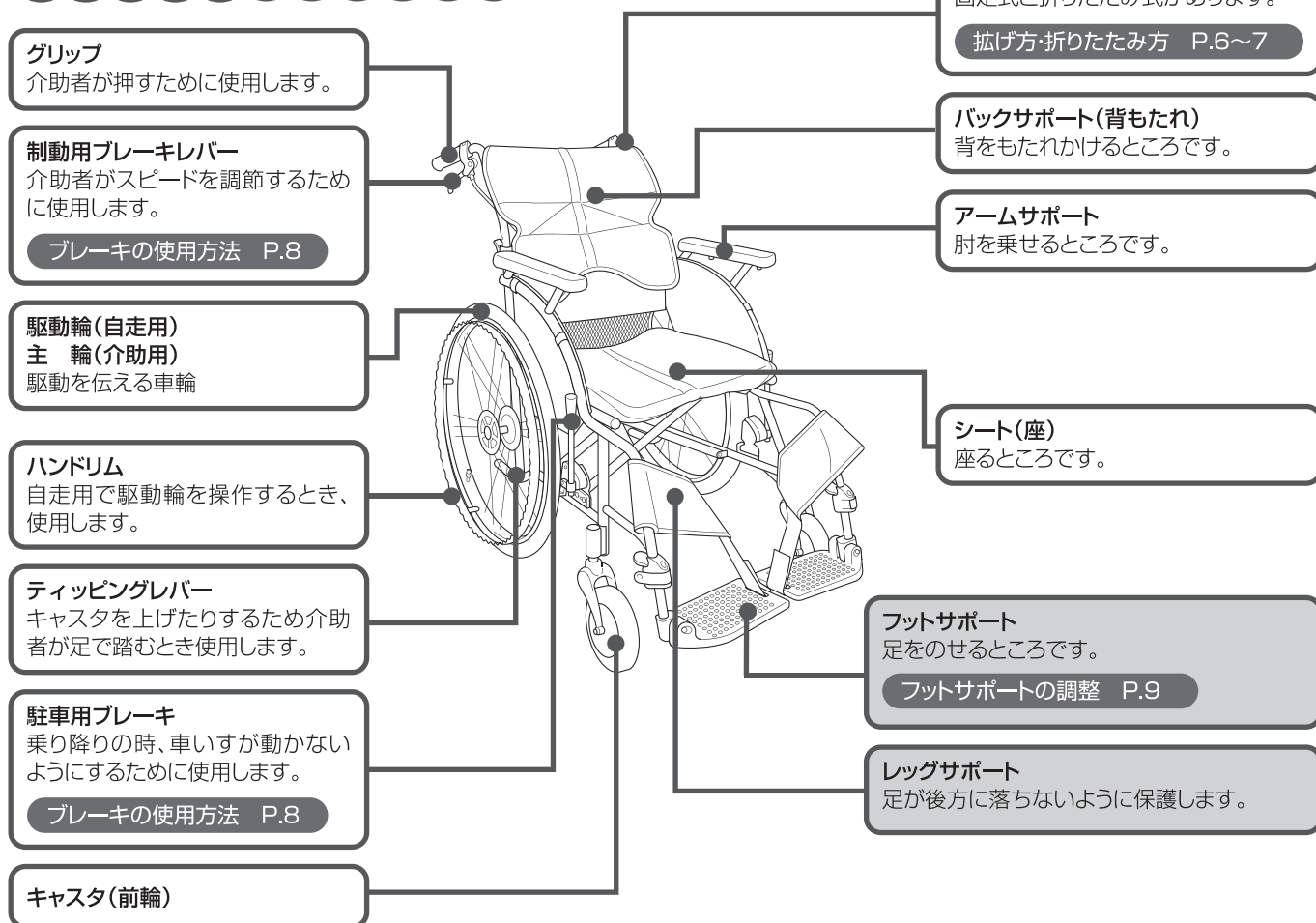
機 種	キャスタ (インチ)	大車輪 (インチ)	前座高 (mm)	後座高 (mm)	シート幅 (mm)	シート奥行 (mm)	アームサポート高 (mm)	バックサポート高 (mm)	フット長※ (mm)	全 長 (mm)	全 高 (mm)	全 幅 (mm)	折畳み幅 (mm)	重 量 (kg)
NEXT-11B	6	22	430	400	400	380	235	440	320～410 7段階調整	935	880	550	290	11.7
NEXT-21B	6	16	430	400	400	380	235	440	320～410 7段階調整	935	880	540	280	10.8

※JIS T 9201:2006による表記になっております。(従来と計測方法が異なる部分があります。)P.20をご覧ください。

※フット長:フットサポートシート間距離。 ◎改良のため予告なしに仕様を変更する事があります。

各部の名称

自走用標準形・介助用標準形

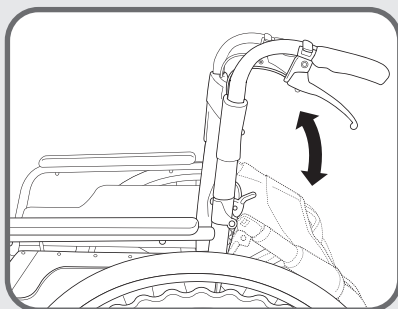


機種別機能一覧

機 種	タイプ	バックサポート	アームサポート	フット・レッグサポート	ブレーキ	
			機 能	機 能	駐車用	制動用
NEXT-11B	自走	固定	固定	固定	ミニ	ドラム
NEXT-21B	介助	固定	固定	固定	ミニ	ドラム

機能説明

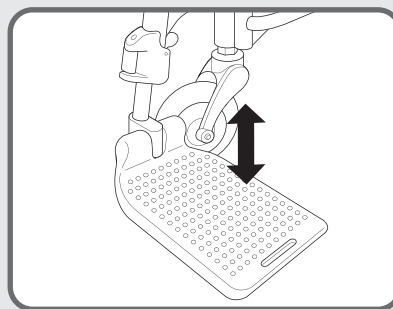
〈バックサポート〉



折りたたみ

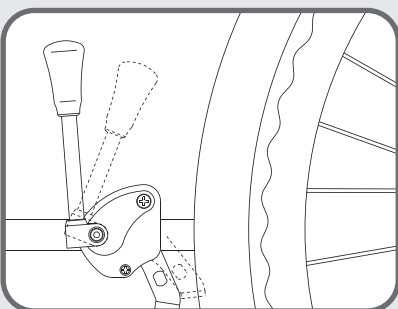
背もたれパイプを折りたたみすることができ、自動車等への積み込みが容易に行えます。

〈フットサポート〉



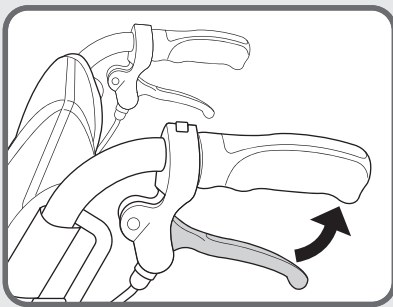
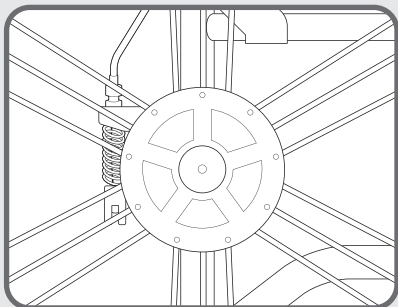
工具レス高さ調整
詳細はP.9参照

〈ブレーキ〉



ミニタックル

駐車用のブレーキです。乗り降りの際に車いすが動かないようにするために使用します。



ドラム

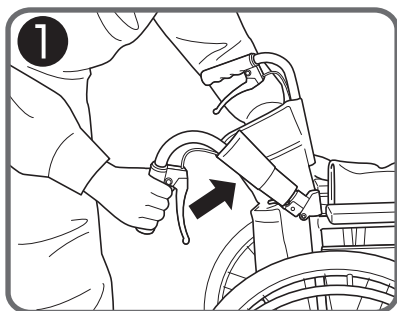
介護者のための制動用ブレーキです。走行中やさあ道で速度を調整する際に使用します。

広げ方・折りたたみ方

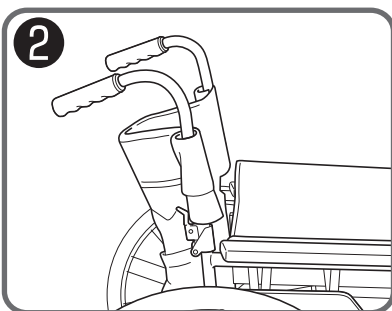
車いすの広げ方

＊バックサポート折りたたみを起こす際は、必ず車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
(広げた状態で行うと、背シートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなります。)

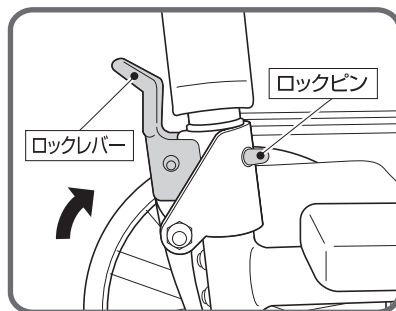
① グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



② バックサポートを両側起こす。



レバーを矢印方向に起こす。



警告

●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、完全に出ていることを確認してください。(急にバックサポートが倒れ、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

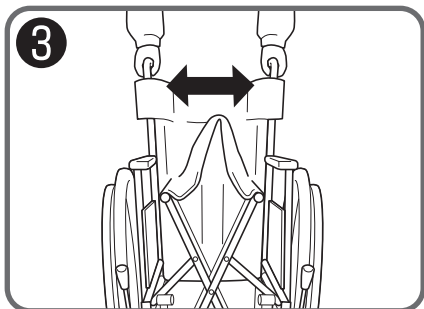


注意

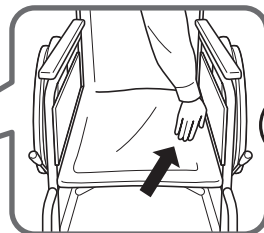
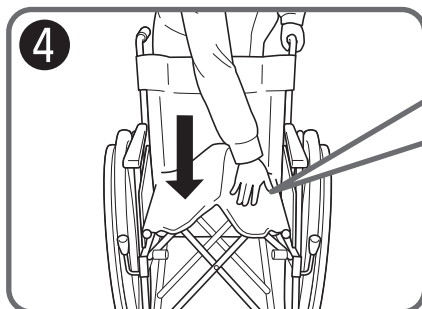
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
(車いすが不安定になり、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

③ 車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



④ 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、車いすが広がります。



※手・指に注意



注意

●車いすを広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない



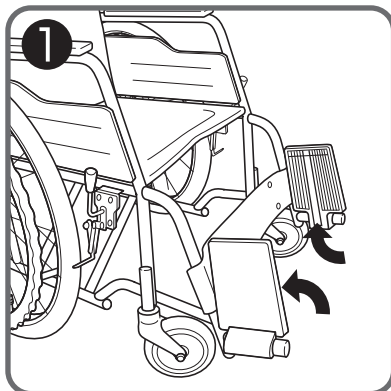
注意

●車いすを広げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

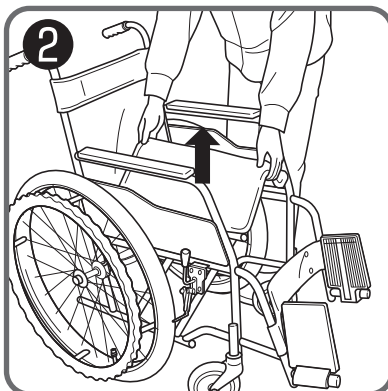
していただく

車いすの折りたたみ方

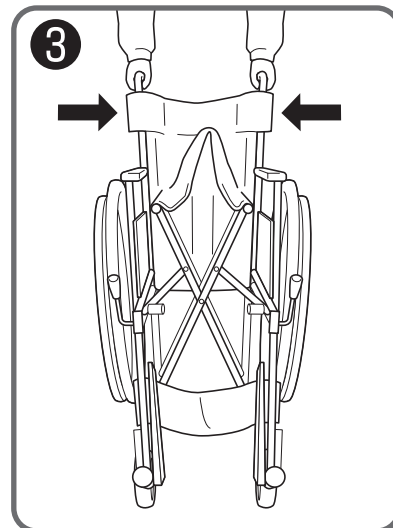
- ① フットサポートを矢印方向に回転させて上げる。



- ② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。

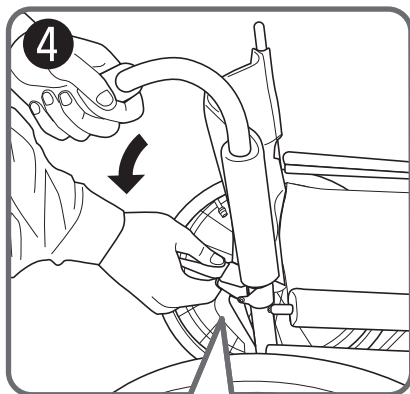


- ③ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。

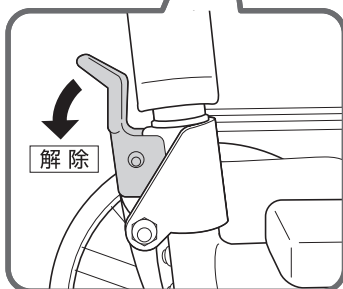
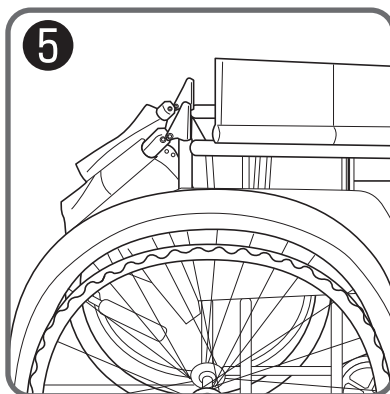


バックサポートが折りたたみの場合は、次の手順を行うとさらに小さく折りたたむことができます。

- ④ グリップを片手で持ち、レバーを後方に倒し、バックサポートを倒す。



- ⑤ バックサポートを両側後方に倒す。



注意

- 車いすを折りたたむ際には、背シート・ポケットの中に物が入っていないことを確認してください。(ポケットの中の物を破損したり、車いすの故障の原因となります。)

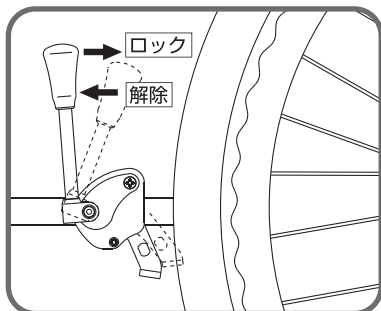
していただく

安全にお使いになるための使用方法

ブレーキの使用方法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニタックル



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。（P.16 ご使用前に参照）
（ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動いたりして、事故の原因となります。）

してはいけない



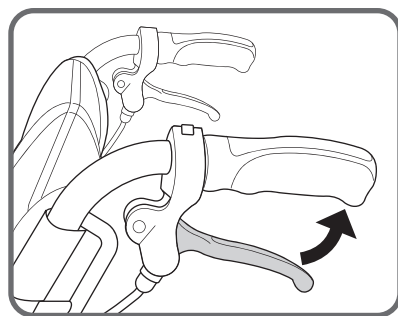
警告

- 車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
（車いすが動き、転倒事故の原因となります。）

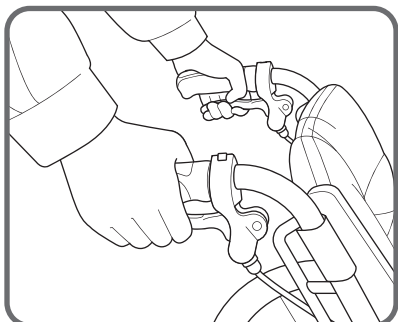
していただく

制動用ブレーキ

- レバーを握るとブレーキがかかります。
- レバーを離すと解除します。



介助者の方が走行中や下り坂での速度減速及び停止に、ご使用ください。



注意

- 急ブレーキをかけないでください。
（車いすに乗っている方が前方へ転倒する恐れがあります。）

してはいけない



注意

- 介助者の方は、制動用ブレーキレバーを、両側同時にかけてください。
（バランスを崩し、転倒事故の原因となります。）

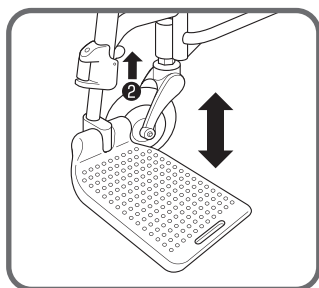
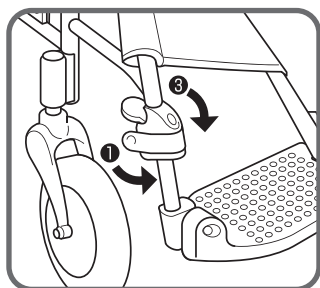
していただく

フットサポートの調整

●お買い上げ時（梱包時）にはフットサポートが収納されています。

〈高さ（長さ）の調整〉

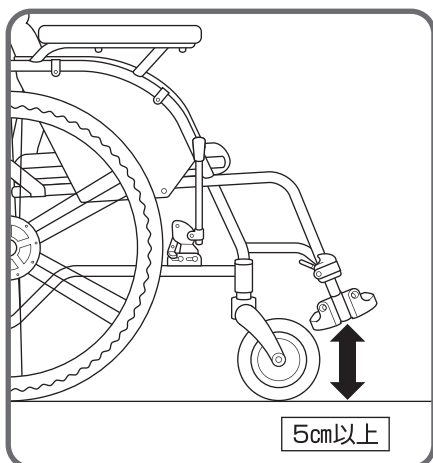
- ① 回転レバーを回転させ、安全ロックを解除します。
- ② プッシュレバーを押しながら高さを上下に調整します。
- ③ 高さを調節し、プッシュレバーが戻っていることを確認して回転レバーを元の位置に戻してロックする。



⚠ 注意

- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落下事故の原因になります。)

していただく



⚠ 注意

- フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが
引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故
の原因になります。)

していただく

使用方法

乗り方



警告

- 車いすに乗る前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



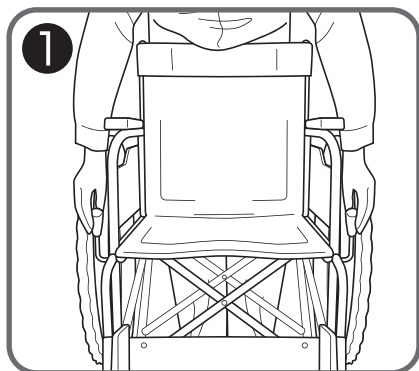
注意

- 車いすに乗るときは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

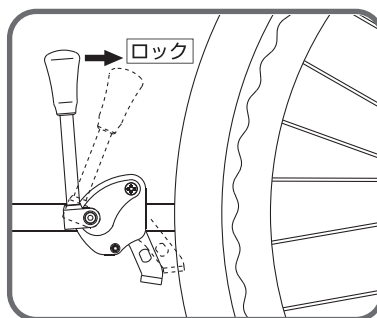
していただく

乗る時

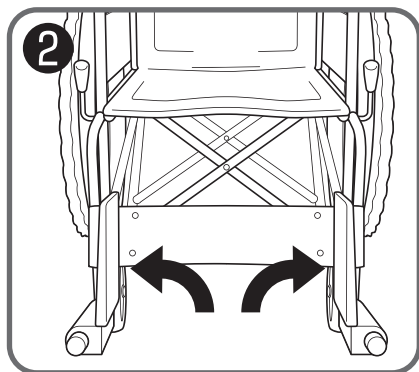
- ①ブレーキを両側ロックする。



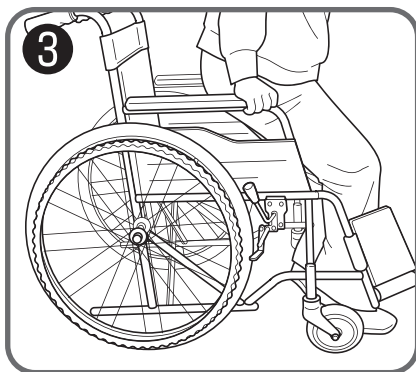
ミニタックル



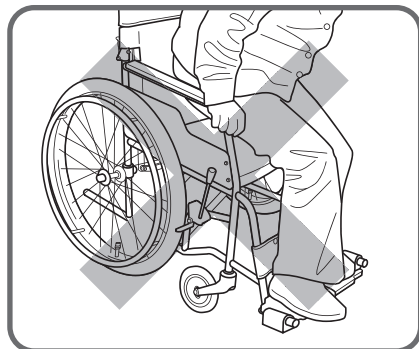
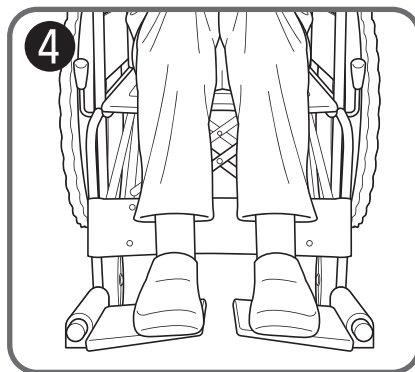
- ②フットサポートを両側上げる。



- ③両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり座り込む。



- ④フットサポートに足を乗せる。



警告

- フットサポートの上に乗らないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

降り方



警告

- 車いすから降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車いすが動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



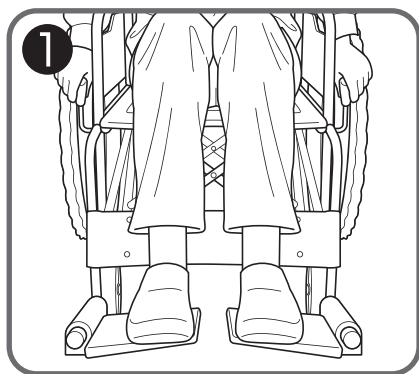
注意

- 車いすから降りるのときは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

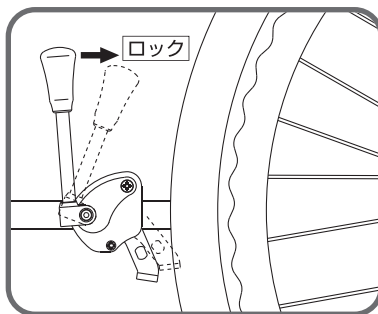
していただく

降りる時

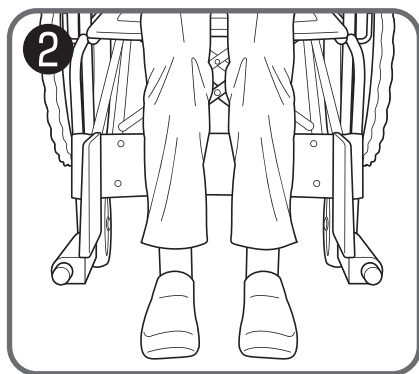
- ①ブレーキを両側ロックする。



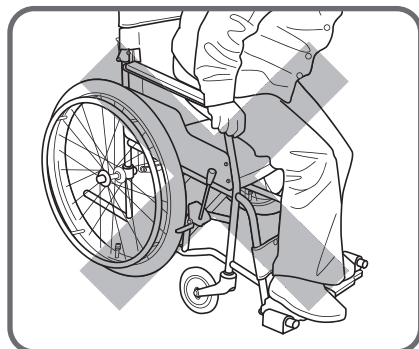
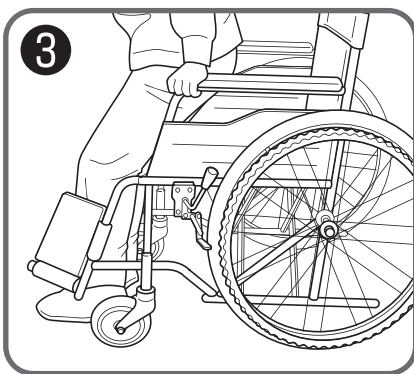
ミニタックル



- ②フットサポートを上げ、足を下ろす。



- ③両手で、アームサポートを持ち
ゆっくり立ち上がる。



警告

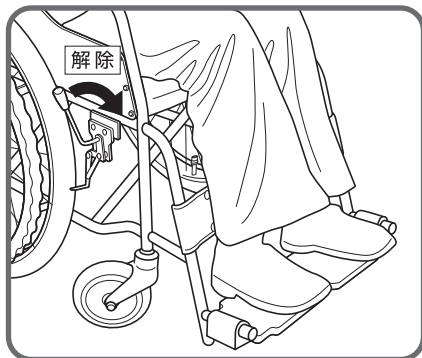
- フットサポートの上に乗らないでください。
(車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

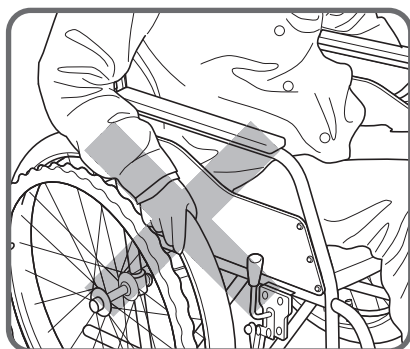
動かし方

(自走用車いすの場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



注意

- タイヤを持って車いすを操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で手にケガをする恐れがあります。
そのようなご使用をされる場合は、車いす用手袋
〈オプション〉をご使用ください。)

してはいけない



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の
原因となります。)

してはいけない

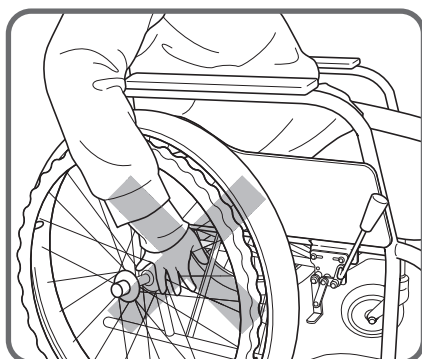


注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を
差し込まないでください。
(手や指をはさんで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

※このような場合にはオプションのスポークカバーの
使用をおすすめします。

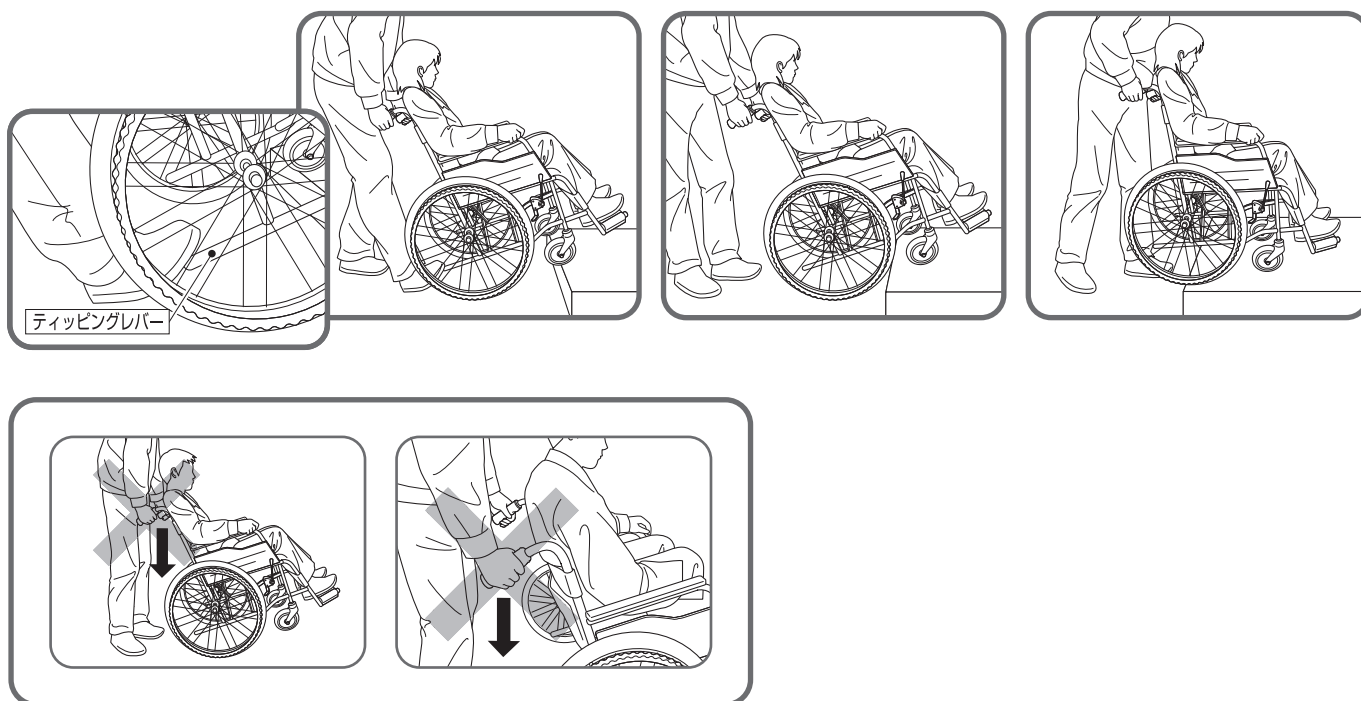


次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。

- ・坂道の登り下り
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・電車への乗車、下車
- ・段差乗り越え
- ・路面が片側に傾斜しているところの走行

介助の仕方

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを踏んでキャスト(前輪)を上げ、段差に乗せてから、後輪を浮かし乗り越えてください。



⚠ 注意

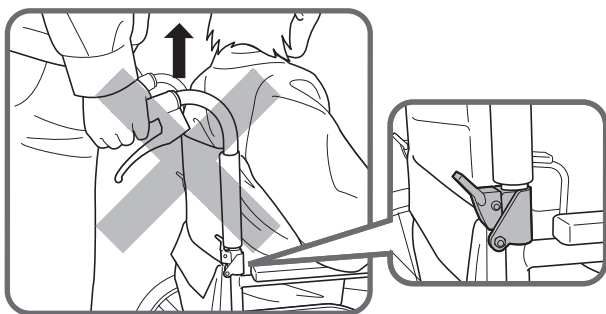
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。)

してはいけない

⚠ 注意

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車いすから転落して、事故の原因となります。)

してはいけない



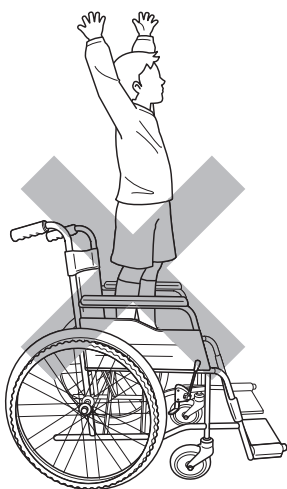
注意

●バックサポートが折りたたみ式の場合は、使用者が車いすに乗っている状態でグリップを持って吊り上げないでください。
(パイプが外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。)

してはいけない

車いすを持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・バックサポートが折りたたみ式のバックサポートパイプ部



警告

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

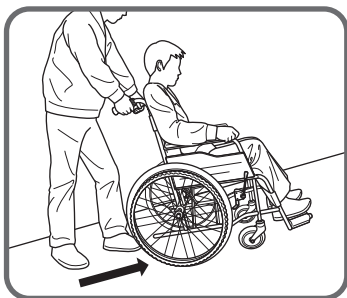
してはいけない

外出時の注意

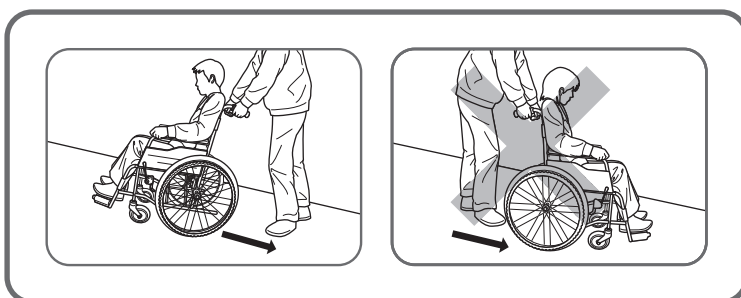
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。

登り坂



下り坂

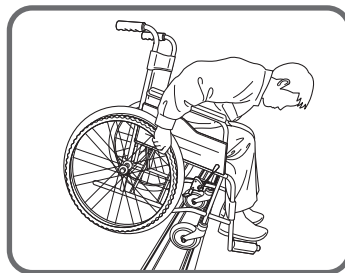
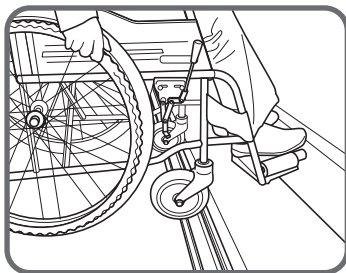
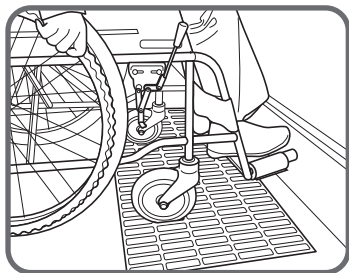


注意

- 坂道を下るとき介助者の方は、車いすを後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

していただく

下図の様な状況下においては、介助者援助をお願いしてください。



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどで使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいて行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)

していただく

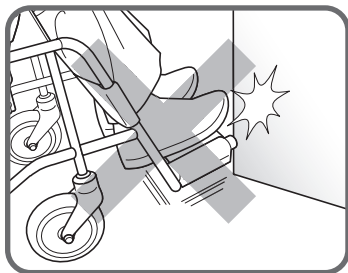


注意

- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
(車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく



注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

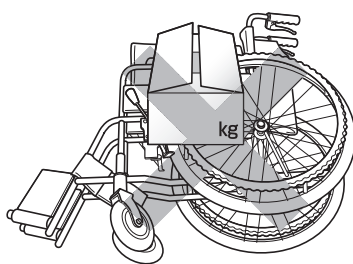
していただく



注意

- 車いすを横向きに倒して、上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。)

してはいけない

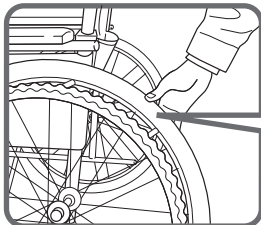


- 階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合
ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてもらってください。

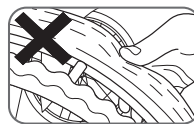
ご使用の前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤの摩耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、
駆動輪・主輪が回転しないか。



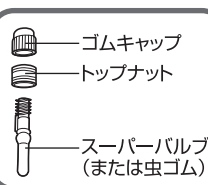
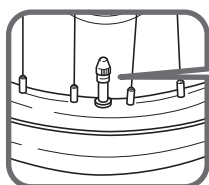
タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、
自転車用空気入れで空気を補充してください。



	タイヤサイズ (インチ)	適正空気圧
自走	22×1	700kpa (7.0kgf/m ²)
介助	16×1 3/8	350kpa (3.5kgf/m ²)

タイヤの空気バルブの
トップナットが緩んで
いないか確認してください。

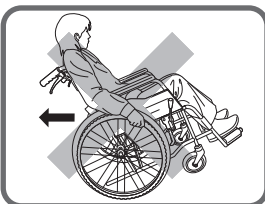
タイヤの空気がすぐに抜けるときは、
スーパーバルブ(または虫ゴム)を
交換してください。



警告

- タイヤの空気圧が少ない状態で、
使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車
いすが動いたりして、事故の原因と
なります。また、タイヤのパンクの原
因となります。)

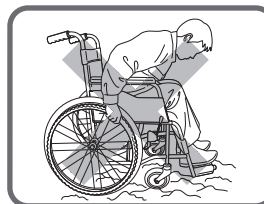
してはいけない



注意

- バックしながら急停止しないでください。
(転倒事故の原因となります。)

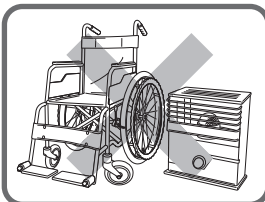
してはいけない



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で
使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒して
事故の原因となります。)

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

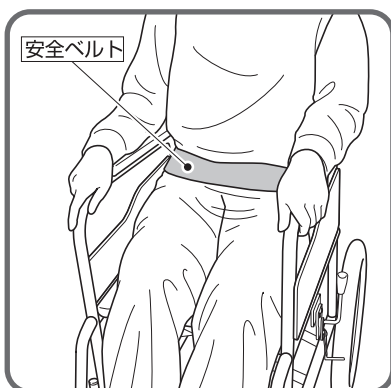
してはいけない

車いすのオプション

安全ベルト

- 使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。

※旧厚生省令にて拘束禁止が定められており、ベルトを使用する際は高度の不随意運動等のあるケースのみと定義して
座位姿勢を工夫することが定められています。ベルトは極力使用を避ける努力をしてください。



注意

していただく

- 安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

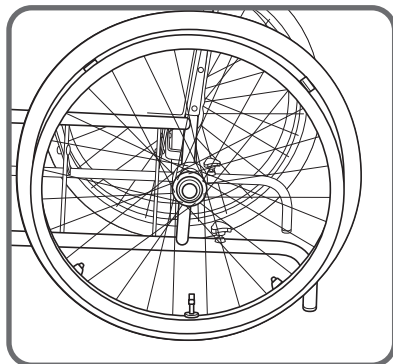
注意

していただく

- 安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを
取り除いてください。
(粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ転落事故
原因となります。)

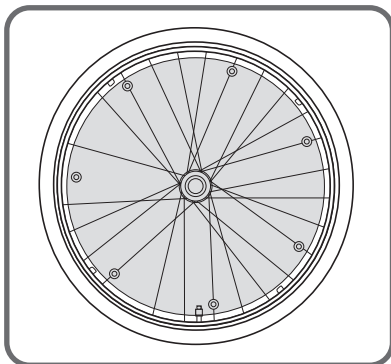
車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意しております。
(車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または(株)松永製作所までご相談ください。)

転倒防止



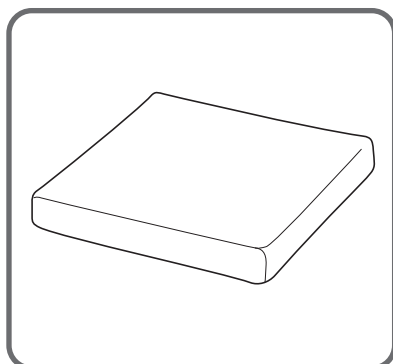
車いすが後方へ倒れることを防止します。

スポークカバー



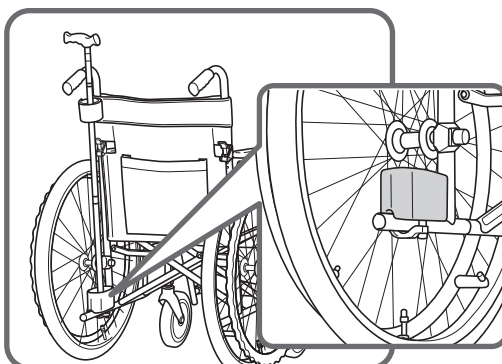
車輪(スポーク)に手を入れケガをすることを防止します。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

杖入れ



車いす後方に、杖を収納することができます。

その他にも

- テーブル
 - ガートル架
 - ボンベ架
 - 泥よけ
- などご用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車いすをご使用されていて「故障かな」と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパーバルブ(または虫ゴム)が劣化していませんか	スーパーバルブ(または虫ゴム)を交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
バックサポート折りたたみのロックピンが入らない	・車いすを拡げて、バックサポートを折りたたみしていませんか	車いすを折りたたんで、行ってください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤(シンナー・ベンジン・アルコール類)では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧は、最適空気圧を適正に保ってください。

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐ為に老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン(O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス(自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤(錆落とし含む))。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

そのままの状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ●タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ | ●フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ |
| ●各部固定部品の変形 | ●駆動輪・キャストの変形 |
| ●ボルト・ナット・ビスの緩み | ●制動用ブレーキ・駐車用ブレーキの効き具合 |

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。

故障の原因となります。

- 雨に濡れるようなところ
- 直射日光が当たるようなところ
- 湿気の多いところ
- 高温になる場所
- 炎天下

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、パンク、シートはやぶれ、ブレーキ、制動用ブレーキ用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

●この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

JIS規格について

参考のため抜粋、整理して記載しているものです。

詳細な内容や正確さを必要とする場合には必ず、JIS T 9201最新版 本文をご参照ください。

日本工業規格 JIS T 9201:2006「手動車いす」により、自走用標準形車いす及び介助用標準形車いすが規定されています。

この取扱説明書の用語、寸法などはこのJIS規格に基づいています。(一部、従来の表記も併用しています) 用語・寸法の定義は以下のようになっています。

車いすの種類について

自走用標準形:一般的に用いる自走用車いすで、後輪にハンドリムを装備し、バックサポートの種類は固定式、着脱式、折りたたみ式及びそれらと同等の方式であり、特別な座位保持具はつかず、任意にバックサポート角度が変えられないもので、前輪はキャスタ、後輪は大径車輪^(※)の4輪で構成したもの。日常生活用で特殊な使用目的のものは除く。また、モジュラー式車いすを含み、各部の調節、脱着及びフレームの折りたたみ方式は限定しない。

介助用標準形:一般的に用いる介助用車いすで、特別な座位保持具やハンドリムはなく、バックサポートの種類は固定式、着脱式、折りたたみ式及びそれらと同等の方式であり、任意にバックサポート角度が変えられないもので、前輪はキャスタ、後輪は中径車輪^(※)以上で構成したもの。シートベルトを装備しているものもある

注(※) 車輪の大きさで“小径車輪”は呼び12 未満、“中径車輪”は呼び12 以上18 未満及び“大径車輪”は呼び18 以上を指す。

各部の名称について

用 語	意 味
シート	座【でん部・大たい(腿)部の支持装置】
バックサポート(バックレスト)	背の支持装置
フット・レッグサポート (レッグサポート)	下たい(腿)・足部の支持装置
フットサポート(フットレスト)	足部の支持装置
レッグサポート(レッグレスト)	下腿の支持装置
アームサポート(アームレスト)	腕の支持装置
車輪	車いすを構成する車輪で、駆動輪、主輪、キャスタ及び補助輪がある
駆動輪	自走用車いすの駆動用車輪
主輪	介助用車いすの主車輪
キャスタ	自由に方向が変わる車輪付き装置
ハンドリム	駆動輪に取り付けられ、手で操作して駆動輪を回転させるための金属又は合成樹脂製の輪
ブレーキ	車いすを停止又は制動するための装置
駐車用ブレーキ	車いすを停止させておくためのブレーキ
制動用ブレーキ	車いすを制動するためのブレーキ
手押しハンドル(グリップ)	介助者が車いすを後方から押すときなどに使う取っ手
グリップ	手押しハンドルの握り
ティッピングレバー	介助者が車いすの前輪上げをするときに踏むためのレバー又はプレート

寸法について

用 語	定 義
寸法基準点	車いす寸法の基準となる点で、バックサポート取付けフレーム前面とシート取付けフレーム上面との交点。
駆動輪(主輪)径	駆動輪又は主輪の最大直径(呼びでもよい)。
キャスト径	キャスト輪の最大直径(呼びでもよい)。
前座高	床からシート取付けフレーム上におけるシート前端上面までの垂直距離。
後座高	床から寸法基準点までの垂直距離。
シート奥行	寸法基準点からシート取付けフレーム上におけるシート先端までの距離。
シート幅	使用時におけるシートの有効幅 (サイドガードの内寸法、シートサイドパイプ内寸法、シートの最大幅など)。
バックサポート高	寸法基準点からバックサポート取付けフレーム上におけるバックサポート上端までの距離。
フットサポート・シート間距離	フットサポート外側上面からシート取付けフレーム上におけるシート前端上面までの距離。
アームサポート高	寸法基準点からアームサポート上端面までの垂直距離。
全高	使用時における車いすの床から最高点までの垂直距離。
全幅	使用時における車いすの左右外側の最大寸法。
全長	使用時における車いすの前後方向の最大寸法。
折りたたみ全幅	折りたたみ時における車いすの左右外側の最大寸法。

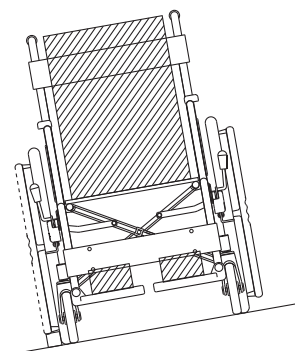
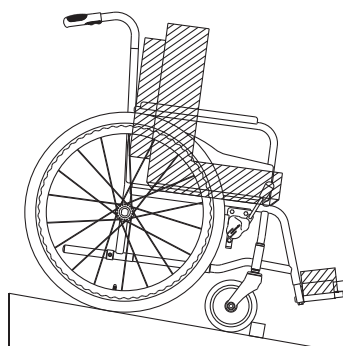
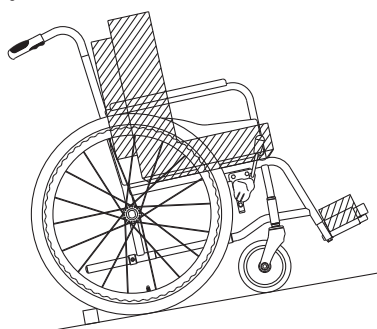
静的安定性の試験方法について

JIS T 9201:2006 10.1.2 静的安定性試験はa)の方法により行っております。

(参考として、a)の方法は以下のようにしております)

下図のように車いすにダミーを載せ、走行路の傾斜角を10度にした場合に、駐車用のブレーキを外した状態で車いすの山側車輪が傾斜台との接地面から離れるかどうかを調べる。この試験は、傾斜台に対して車いすを上向き、下向き及び左右横向きに置いて行う。

なお、試験に供する車いすのキャストは、トレーリングポジションとし、すべりを防ぐための高さ40mmのガイドを使用する。



ねじの種類について

各部には一般用メートルねじを使用しておりますが、次の部分には他の種類のねじを使用しております。

- ・シートビス……………タッピンネジ
- ・ミニタックルカバー部……………タッピンネジ
- ・主軸(駆動輪・主輪)部……………ユニファイネジ(UNF¹/₂)

車いす 点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店(有料)で定期的に点検をしていただくようにお願いします。

(長期間で使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください)

点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目		年 月 日					
		点 検 者					
キャスタ(前輪)	亀裂・キズの有無						
	キャスタの摩耗						
	スムーズな回転						
フォーク	損傷の有無						
	スムーズな旋回						
後輪	タイヤの空気圧						
	タイヤの摩耗						
	スムーズな回転						
	ホイールのキズの有無						
	スポークの緩み(自走のみ)						
フレーム	各部キズの有無						
	ボルト・ナットの緩み						
	スムーズな折たたみ						
ブレーキ	ブレーキの効き						
シート	シートの破れ・損傷						
	シート固定ネジの緩み						
フットサポート	固定ボルトの緩み						
	プレートの破損						
アームサポート	固定ボルトの緩み						
	パッドの破損						
その他							

愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

株式会社 松 永 製 作 所

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484

TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270

URL <http://www.matsunaga-w.co.jp>